

サービス改善計画書

策定日： 令和5年3月20日

事業・サービス名： 放課後等デイサービス

施設・事業所名： あおぞら

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	△	活動室に物を置いたりしているため車いす利用の子などにとっては狭く感じられる。	活動室を常に整頓し、スムーズな移動ができるようにしていく。後片付けを心掛ける。	令和5年度	児発管 職員	
職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	△	研修参加の斡旋が不十分であった。情報の発信ができていなかった。	情報の共有に努め、研修への参加を促していく。	令和5年度	児発管	
子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	×	アセスメントツールがどのようなものかわからない。どのようにすればいいのか知らない。	発達段階に合わせた活動を提供し成長を促す。アセスメントツールについて勉強していく。	令和5年度	児発管 職員	
支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	△	業務後に職員が集まって振り返る時間を設けることができなかった。	報告する習慣、話し合う環境を作っていく。	令和5年度	児発管 職員	
ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	△	コロナ感染予防を考えると調理実習などはできなかった。	外遊びや、創作・音楽、調理などを通して子どもの心身の発育を促していく。	令和5年度	児発管 職員	
就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	×	園によっては、情報を出し渋ることがある。情報の引継ぎができていない。会議などもない。	子どもの情報や特性を共有できるように、働きかけていく。	令和5年度	児発管	
子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	△	苦情対応の仕方を学ぶ機会がない。	苦情の対し、真摯に対応することが必要。	令和5年度	児発管 職員	

